令和５年度　大阪府献血推進審議会

日　時：令和６年２月８日（木）

午後２時から午後３時１８分

場　所：ＫＫＲホテル大阪　２階　白鳥

【事務局（犬伏）】　　お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより大阪府献血推進審議会を開催いたします。

私は本日、司会を務めさせていただきます大阪府健康医療部保健医療室医療対策課の犬伏と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、大阪府情報公開条例の規定によりまして公開とさせていただいております。御了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、医療対策課長の奥野より御挨拶申し上げます。

【事務局（奥野）】　　献血推進審議会の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、日頃より大阪府の献血推進に御理解、御協力いただきまして、厚く御礼申し上げます。

１月１日に発生しました能登半島地震から１か月以上たちましたが、避難者はまだ１万人を超えるという状態で、一部の地域では断水も続いております。

大阪府では、ＤＭＡＴ隊員派遣などの人的支援、あるいは衛生資材発送などの物資支援、府営住宅への被災者受入れなど、様々な被災地支援に今取り組んでおります。

また、日本赤十字社、医師会、歯科医師会、薬剤師会など、この審議会の委員の皆様の所属団体におかれましても、それぞれ専門性を生かした様々な御支援をされていることと存じます。一刻も早い復興を祈っておるところでございます。

さて、本題であります献血推進の実施状況については、詳細は後ほどご説明がありますが、関係機関が連携し、血液の安定確保に努めた結果、府内では血液の必要量が概ね確保できているという状況で、昨年度も、府内で約３９万人の方に献血に御協力いただきました。

一方、後ほどの議題にありますが、将来の献血を支える若年層の献血者の減少傾向は続いており、現状は４０代以上の献血者で支えられているという状況で、安定的に血液を確保するためには、若年層の方々に対する献血推進活動が重要です。

大阪府では、市町村、赤十字血液センターなどとの連携の下、ポスター原画募集、あるいは献血セミナーなど、若者が献血に触れ合う機会を増やす取組を積極的に推進しています。

本日は、これらの取組内容を大阪府赤十字血液センター様、学生献血推進協議会様、大阪府医療対策課から共有させていただくとともに、令和６年度の大阪府献血推進計画を御審議いただく予定になっております。

引き続き安定した血液製剤の供給を行うため、献血の役割や重要性を積極的に広報し、若年層を含む、より多くの方々に献血に御理解、御協力いただけますように取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様の活発な御議論をお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

【事務局（犬伏）】　　次に、本日配付しております資料の確認をさせていただきます。

委員の皆様には、次第、配席図、委員名簿、続きまして資料の１から４、大阪府における血液事業の現況、献血推進に係る大阪府の取組、大阪府学生献血推進協議会活動報告、そして令和６年度の推進計画案、参考に「血液事業の現状」を配布させていただいております。

不足等はございませんでしょうか。

なお、大変申し訳ないですが、配席図に一部修正がございます。

配席図の左側、中山委員のお隣に好永委員がいらっしゃいますので、どうぞよろしくお願いします。また、不手際につきましておわび申し上げます。

また、本日ですが、大阪市地域女性団体協議会の永田委員、大阪府市長会辻委員、一般財団法人大阪府薬剤師会伊藤委員、赤十字奉仕団大阪府支部委員会武智委員につきましては、所用のため御欠席とお聞きしております。

続きまして、本会議についてですが、本審議会規則第５条第２項に基づきまして、委員の過半数の出席が必要となります。本日、２１名の委員中１７名の御出席を確認しております。審議会が有効に成立していることを御報告させていただきます。

それでは、これからの議事進行につきましては会長にお願いしたいと思います。

金倉会長、どうぞよろしくお願いいたします。

【金倉会長】　　会長の金倉です。よろしくお願いいたします。会議の円滑な進行に、皆様方の協力をよろしくお願いいたします。

それでは議事を進めさせていただきます。

議題の（１）でございますが、血液事業の現状について。まず大阪府における血液事業の現況について、大阪府赤十字血液センターの平山所長から御説明をお願いします。

【平山委員】　　ただいま紹介いただきました、大阪府赤十字血液センターの平山と申しま

す。少しお時間を頂戴しまして、大阪府における血液事業の現状について、説明させていただきます。

それでは始めさせていただきます。新しい委員の先生方もおられるということなので、最初に献血で頂いた血液から、どのような血液製剤が製造されていくのかというのを、簡単に説明させていただきます。

献血の種類は２種類で、全血献血と成分献血、２種類あります。

全血献血のほうは、遠心分離をしますと２層に分かれまして、下のほうに赤血球、上のほうに血漿が分離されてまいります。この下のほうの赤血球層を利用しまして、赤血球製剤が製造されてきます。上の血漿の層を利用しまして、血漿製剤、正確な名前をいいますと、新鮮凍結血漿が製造されてまいります。

成分献血は、血漿献血と血小板献血がありますが、それぞれ血漿からは新鮮凍結血漿、血小板からは血小板製剤が製造されます。この３つの、赤血球、新鮮凍結血漿、血小板を、患者さんには輸血という形で投与されますので、輸血用血液製剤というふうに呼ばれています。

血漿に関しましては、もう一つのルートがございます。全血あるいは成分で得られた血漿に関しては、一部は今申しましたように新鮮凍結血漿が製造されますが、残りの血漿に関しましては、原料血漿という形で、国内の３つの製薬会社、日本血液製剤機構、それから武田薬品工業、KMバイオロジクスという製薬会社に送付されまして、この３つのメーカーさんの元に、血漿の中に入っております免疫グロブリン、あるいはアルブミン、あるいは凝固因子を精製して、薬にするという形で製造されていきます。

免疫グロブリン製剤、アルブミン製剤、凝固因子製剤等々があり、薬として患者さんに投与されるということで、先ほどの輸血用の血液製剤とは区別して、血漿分画製剤というふうに呼ばれております。

ここから本題ですが、まず、輸血用の血液製剤の供給数です。大阪府で過去５０年間のグラフを示しております。棒グラフのほうを見ていただくと、医療の発展とともに供給本数が伸びていって、ある時期は供給本数が減って、また増えて、現在はここ数年にわたってフラットのステージにございます。

輸血の数量を下げる要因としては、幾つか考えられております。１つは適正使用。無駄遣いやめましょうという気運が浸透してきて、使用量が減ったということです。もう一つは、輸血をするとやっぱり感染症が移るというような、いろんなリスクがございますので、でき

るだけ同種輸血は避けていきましょうという考え方がありまして、それはＰａｔｉｅｎｔ Ｂｌｏｏｄ　Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔという考え方になります。これが浸透することによって使用量が減少している。例えば、待機手術の場合、患者さんに貧血があれば、まずは貧血を改善させてから手術をしましょう、そういうことによって、輸血をできるだけ回避しましょうというような考え方です。

それから、治療法に関しましては日進月歩です。術式の改善の１つですが、最近は手術ロボットが登場しまして、これによって出血量が激減できるというような術式もたくさん増えてきましたので、こういう要素によって使用量が下がるということになります。

一方、使用量が上がる要因としましては、高齢者人口の増加、言い換えますと、輸血が必要な病気をお持ちの患者さんが増えたということです。それに相見えるように、今の高齢者は、非常に体力的にも以前と比べますと随分よくなってきています。ですから、以前であれば８０、９０歳で手術はあまり考えなかったが、最近は８０、９０歳でも適応があれば手術をされる。手術以外の積極的な治療にも耐えられるような体力をお持ちになってきたということで、こういうことが輸血使用量を押し上げる要因として考えられています。

この下げる要因と、上げる要因、現在は両者拮抗して、ここ数年ほとんど供給量は変わらないという年が続いております。

これは、大阪府の直近の４年間の供給実績と、来年度の供給計画を示したものですが、ほとんどトータルでは変わりません。４３万２０００本余りの血液を供給する予定をしております。赤血球製剤で２８万本、血漿で８万９０００本、血小板で６万２０００本の供給を予定しております。

それから、先ほども冒頭に説明しました原料血漿ですが、原料血漿を３社のメーカーさんに送付しており、この縦軸は日本の全体でのトータルの送付量です。６年ぐらい前から原料血漿の送付量が増加してきております。１．３倍程度に増加してきております。増加している原因としましては、原料血漿を元に、いろんな血漿分画製剤を製造していただき、その中のグロブリン製剤の需要が増しているということで、結果的に原料血漿の送付量が増加してきているということになります。

令和５年度は若干減ってきており、これ特殊な事情がありまして、武田薬品工業株式会社のプラント工場の改修工事が進んでおり、製造能力が若干落ちているというところがあって、今現在、令和５年度は若干送付量も落ちています。

ただ、世界的な傾向を見てみますと、下のグラフですが、棒グラフがグロブリン製剤の使

用量です。毎年、需要が上がっております。それに伴って、折れ線グラフのほうですけれど、原料血漿の必要量も上がってきていると、同じような傾向が日本でも起こるとすれば、今後、この武田薬品工業株式会社のプラント工場の改修工事が終われば、また上がってくるのではないかと予想されます。

武田薬品工業株式会社は、１０００億をかけて２０３０年に大阪市の十三に２００万リットル規模のプラントを建設されるようです。これが完成すると、ますます原料血漿の送付量が増えるのではないかと個人的には考えておるような次第です。

一方、献血者の数はどうかというと、これ大阪府の過去６０年間の棒グラフのほうを見ていただきますと、トータルの献血者の数の推移です。ただ、献血者の数といっても、１回しか献血されない方もおられますし、２回、３回、多い方では１０回、２０回献血される方がおられるので、献血者の数は延べ数ということで御理解ください。

医療が発展するとともに、献血者の数は増えてまいりました。一旦、平成３年にピークを迎えますが、その後、減少に向かって、ここ１５年、２０年ぐらいは安定期、フラットのフェーズに入っております。ピークのときは大阪府で５６万人の方が献血いただいていたが、令和４年では約３８万人の方の献血にとどまっております。

献血の種類を見てみますと、昭和６１年までは２００㎖ 献血しかありませんでした。昭和６１年に法律を変えていただいて、倍の４００㎖ を採れるということにしていただいた結果、４００㎖ 献血、ブルーの部分ですけれども、４００㎖ 献血の推進が行われ、逆に２００㎖ 献血のほう、数は年々減ってきて、今は全血献血の数％しか２００mL 献血というのはありません。

同じ年に、成分献血、黄色の成分献血が導入されまして、４００mL 献血と成分献血が推進されて、１人からたくさん頂けるようになり、必要量が一定であればそれに要する献血者の数は減るということで、若干、献血者の数が減って、今は安定期に入って、フラットの時期にあるというようなことであります。

４００mL 献血が中心になりますと、４００mL 献血ができる基準が幾つかありますが、その１つが体重です。体重５０キロ以上ないと４００mL 献血はできないということで、低体重の女性の方に関してはなかなか４００mL 献血がしにくいということで、トータルとして女性の献血者の数が一時的に減ってまいりまして、今は男性対女性が、２対１ぐらいの割合になっております。

直近４年の大阪府の献血者数の推移と、それから赤枠で囲んだところは来年度の計画で

す。過去２年とほぼ同じ数、約３８万７０００人の献血者の献血を予定しております。２００mL 献血で５３００人に、４００mL で２５万人、血漿で８万２０００人、それから血小板で４万七千数百人の献血を予定しております。ただ、血小板の献血に関しましては、若干献血の数が減っております。といいますのは、これも４００mL 献血と同じように、お一人から血小板たくさん採りましょうという施策を今取っておりますので、献血者お一人から今までは患者お一人分の輸血に必要な量しか採っていなかったところ、２人分採りましょうというようなことを推進していまして、若干、血小板の献血の献血者の数は減少気味ということになっております。

これは、種類別の献血の献血者の割合ですけれども、３分の２は４００mL 献血、残りの３分の１は成分献血で、２００mL 献血はもう数％というところにとどまっております。

これは、年齢別の献血者数の推移で、１歳刻みで、この辺りが１０代、２０代で、６０代の献血者がそれぞれ何人ぐらい献血されているかというのをまとめたグラフです。比較のために２０１３年の献血者の年齢の分布、茶色ですね、それと直近の２０２２年度の献血者の年齢の分布を、両方重ねて表しております。

２０１３年度は、ピークは４０歳の方がピークでした。その約１０年後は、５０歳がピークということで、献血者の方も１０年たてば１０歳年を取るということで、以前４０歳の方が今５０歳になっているということで、全体的に４０歳以上の方の献血者の分布は右へシフトしているということになります。

では、若い人たちどうなのかということですけれど、１０代はこんなに減っています。２０代も、３０代もこんなに減っています。あと１０年、２０年たつと、今メインで献血していただいている５０代、６０代の方がやがて卒業される。献血は７０歳になると献血できないということになりますので、やがては卒業される。たくさんの方が卒業される中で、若い人たちの献血者が増えることができるかというと、非常に心もとない状態になってきていると。これが、一番、今の血液事情の中で、大きな問題となっております。

３０代までを若年者というふうに定義づけると、僅か４０％の方が若年者に相当するということで、ここのパーセンテージをいかに上げていくのかというのが、大きな問題になっております。若年者の献血数が少ない大きな理由の１つは少子化なので、少子化自身を血液事業で何とかするということはできないから、少子化で子供の数が減るというのを前提にした上で、いかにたくさんの方に献血をしていただくかという施策を取っていかないといけないということになります。

初回献血の方の数も、半減しております。つまり、初回の献血者の掘り起こしも非常に重要になってくるというふうに考えております。

先ほどの献血者減をどうするか、初回献血者の減をどうするかという対策が、非常に重要になってまいります。２つの方針に則り事業を進めております。１つは、年齢層別の対策を立てるということと、もう一つは、企業さんに献血の協力をお願いするに当たって、献血協力というのは社会貢献ですよということを企業さんによく理解していただいた上で、積極的に献血の協力をいただいていくという、２本柱を考えております。

１つ目の年齢層別の対策ですが、まず小学生に対して、小学生はまだ献血できないのですが、将来の新たな献血者ということで、献血に関心を持っていただくということを目的として、大阪センターでは毎年夏休みの時期に、「献血おもしろゼミナール」というのを実施しています。ここ３年は、コロナ禍がありましたので実施できなかったのですが、今年度からまた再開しております。３日間で、午前午後２コマで、１回当たり４０人の小学生を集めまして、トータルで２４０名ぐらいになりますが、まず集まっていただいて、座学で説明をさせていただいた上で、見学ということになってまいります。

これは、献血ベッドに実際に座っていただいて、擬似的な献血を経験していただいているところです。それから、事前に職員の血液をサンプルとして採血した血液を、凝集法で血液型の判定、この人はＡ型、この人はＢ型ですねという、凝集像を実際に見ていただくというようなこともやっております。ここでお見せしているのは、多分、血小板製剤だと思いますが、血液製剤ってこういう最終的な形になるんですよというのを実際に見ていただいているところのお写真です。

中学生から大学生に関してどういうことをやっているかというと、１つは献血セミナーをやらせていただいています。お越しいただくのが無理というような学校に関しては、こちらから出向いて、出前の献血セミナーというのを実施させていただいています。この写真は府立工芸高等学校で実施した献血セミナーの風景です。

血液センターのほうに来ていただける場合は、血液センターに集まっていただいて、献血セミナーを実施させていただきます。これが終わった後には、実際に施設のほうの見学に回っていただいて、供給部分では実際の製剤を見ていただく、場合によっては献血会場に出向いていただいて、我々職員と一緒に献血者のリクルート活動に参加していただくというような実体験を通して、献血に対する理解を深めていただくという活動を行っております。

それから、若年層献血者に対して、はたちの献血、今実際にキャンペーンをやっていると

ころで、毎年１月、２月に、二十歳のキャンペーンをやっております。今年のＣＭキャラクターは、芦田愛菜さんです。「つなげ、その「ち」から。」ということで、こういうポスターも作成しました。テレビでも放映されていると思います。

それから、これはＰＲ用の動画です。もう既にテレビなんかで御覧になっておられる方もおられると思いますが、日常の何気ない風景の中に、献血に対するＰＲを入れ込んでいきましょうというものです。２人の人物が登場します。ラーメン屋さんでラーメンを食べている風景です。お一人の方の腕にばんそうこうが貼られているというのを、もう一人の方が見つけて、病院行ったのと聞き、いや、病院ではなくて献血に行ったんですと。二十歳になったから献血しようと思って、献血に行ったんですという回答をするんですね。そうすると、この最初の女の子は、偉いなというつぶやきをもってこの動画は終了しますが、私が言うのも何ですけれど、非常によくできた動画なので、ネットで二十歳のキャンペーンというふうに検索していただくと、この動画がすぐに出てくると思うので、後刻、御覧になっていただけたらと思います。

それから、もう一つの柱の社会貢献ということを企業さんに御理解いただいて、献血していただくということに関してですが、例えば、Ａｍａｚｏｎでは全国各地に配送センターがありますので、そこにバスを配車し、献血協力をいただいています。大阪府内でも複数回、御協力いただいているような次第です。

それから、大阪府にはプロのラグビーチーム、レッドハリケーンズ大阪と、プロのバスケットボールチーム、大阪エヴェッサというチームがあります。この２つのチームに、献血ＰＲのポスターの作成を御協力いただいております。

レッドハリケーンズ大阪に関しましては、ポスターだけではなく、実際のスタジアムにこういう横断幕、「緊急！今、あなたの献血が必要です。」というような横断幕を掲げていただいて、献血のＰＲをしていただいています。あるいは街頭献血にお越しいただいて、リクルート活動のお手伝いをしていただくとか、実際に献血をしていただくという形で、御協力をいただいております。

それから、１回きりの献血ではなくて、２回、３回、あるいは５回、１０回と献血回数を増やしていただくための１つの方策として、ラブラッドと命名している、Ｗｅｂ会員サービスがあります。Ｗｅｂ会員になるとどういうことができるかというと、Ｗｅｂを通して、携帯を通して献血の予約ができる。それから、事前の問診に回答ができる。平成 17 年以降の過去の検査結果を、全てＷｅｂで御覧になることができる。それから、会員特典としてはポ

イントがたまるというような、Ｗｅｂ会員サービスを設けております。これによって、１つは献血の利便性がアップするということになりますので、便利になるので献血回数も同時に増やしてくださいというような活動を行っております。

それからもう一つ、献血回数を増やす手段として、ダブル献血というのを奨励しております。全血の場合は男性であると年に３回、女性だと２回しか献血ができません。その一方で、成分献血になるとマキシマム２４回献血ができると。例えば男性で、全血を献血している方、年間マキシマム３回しかできないが、全血と全血の間は１２週以上空けないといけないので、年間３回しかできませんが、８週空けると成分献血ができるということになりますので、この全血と全血の間に成分を入れていただくと、その分献血の回数が上がるということで、両方の献血をうまく組み立てて献血してくださいというダブル献血を推奨しているようなところです。

そういう活動の結果、棒グラフのほうは延べの献血者の数の推移で、最近はフラットだというお話をさせていただきましたが、実献血者数ってその半分ぐらいしかいなくて、赤い折れ線グラフを御覧になると、実献血者数は若干減少気味にあります。でも、複数回献血をしていただいた方の数は、このようにどんどん上がってきていますので、献血者の減を、複数回献血していただくことによって、延べの献血回数を維持しているというようなところです。今後は、維持だけではなくて、延べの献血者の数を、複数回献血者の推進によって今よりも増やしていくというような算段をしているところです。

以上です。ありがとうございました。

【金倉会長】　　はい。平山所長、ありがとうございました。

続きまして、献血推進に係る大阪府の取組について、事務局から御説明をお願いします。

【事務局（山﨑）】　　事務局の大阪府医療対策課山﨑と申します。

私のほうからは、この資料２、献血推進に係る大阪府の取組というもので説明させていただきます。

それでは、資料をめくっていただきまして、まず１ページを御覧ください。昨年度の大阪府献血推進計画の目標と、あと平山委員様からも先ほど御説明がありました、実績の比較になります。

こちら、献血計画におけます数値目標は、ここに記載をさせていただいておりますように、献血者数と、原料血漿及び輸血用血液を含んだ献血血液の確保量、採血場所別献血者数、年代別献血者数と、献血セミナーの実施回数になります。

主な達成目標は、一番上のこの献血者数になりますが、令和４年度、こちら９９．１％と、１００％を満たさないものの、おおむね計画を達成したと考えております。

その内訳ですが、２００ミリリットル、４００ミリリットルの全血献血、こちらのほうは目標以上の達成となっておりますが、成分献血は血漿、血小板ともに、９１．６％、９７．１％と僅かに目標が達成できておりません。

また、２つ目の献血血液の確保量についてですが、成分献血の達成率が、献血者数の成分献血の達成率と比較して、微妙に差がございます。例えば、血小板の献血者数の達成率が９７．１％に対しまして、血液の確保量は１００．４％となっております。こちらは、２００ミリや４００ミリリットルの全血献血と異なり、成分献血は献血者によって採血量が異なることによりまして、単位が人かリットルかによって数値に少しずれが出てくることによります。

これらに関連する取組事例につきましては、大阪府赤十字血液センターや市町村献血推進協議会の皆様の関連団体と併せての一例を記載させていただきました。

続きまして、若年層の献血目標につきましては、その下段の年代別献血者数及び献血セミナーになります。

年代別献血者数を見ていただきましたら、全国的に同様の傾向ではありますが、大阪府においても１０代から３０代の若年層献血者数は目標達成に至っておりません。引き続き、若年層啓発を積極的に取り組む必要があります。若年層啓発については、また後ほど御説明させていただきます。

献血セミナーですが、血液センターの職員様による高校等への出前講座のことですが、この回数は高校における実施回数の目標値になりまして、令和４年度、コロナ禍以降初めて目標を達成というふうになっております。

若年層啓発に関する取組の一例については、先ほど平山委員からも御説明がありました献血おもしろゼミナールなどの取組を実施しております。

続きまして、２ページを御覧ください。今年度の主な献血目標になります。

今年度大阪府では、総献血者数３８万７４２４人、献血血液確保目標量１７万２６１７リットルを目標として事業を展開しております。今年度まだ年度途中なので、実績はまだですが、１２月末時点で約２９万人の方から御協力を得られていると伺っておりまして、おおむね１２月末時点では計画どおりの推移となっております。一方で、若年層献血者数につきましては、例年どおり、やはり目標値からすると低い状況と伺っております。

次のページには、参考としまして今年度の事業計画をお示ししております。

では、続きまして４ページを御覧ください。こちらは、献血推進に係る大阪府の取組をお示ししております。

１つ目、会議の開催についてですが、６月開催の市町村献血推進担当者会議及び２月開催の本審議会を例年どおり開催しております。

２つ目、献血推進功労者等の顕彰につきましては、長年献血の推進活動に御協力いただいた個人及び団体の、大阪府知事感謝状贈呈式と厚生労働大臣表彰状、感謝状の伝達式、これは例年開催しているもののコロナ禍以降中止が続いておりました。今年度はコロナ禍以降初めて、ＫＫＲホテルにて開催することができました。

３つ目、献血推進月間・キャンペーンにつきましては、こちら各市町村献血推進協議会、各種ボランティア団体様に御協力いただきまして、各地で街頭キャンペーン等を実施していただきました。４ページ、５ページは、令和５年７月の「愛の血液助け合い運動」の月間における、各市町村献血推進協議会の活動をまとめたものになります。現在集計中ですが、７月同様、１２月の大阪府献血推進月間にも、活発に街頭キャンペーン等に御協力をいただいております。

続きまして、広報活動についてですが、大阪府のホームページや府政だよりのほか、ｆａｃｅｂｏｏｋやXなどのＳＮＳ、デジタルサイネージや、大阪府が発信するメールマガジン、セミナーを利用した啓発を行っております。また、ＦＭ大阪において、献血推進月間の周知を行っております。活動の内容の詳細は、また後ほど御説明させていただきます。

最後、若年層の献血推進ですが、少子化で献血可能人口が減少している中で、将来にわたって安定的に血液を確保するためには、若年層に対する献血啓発が課題でありますが、大阪府ではポスターなどの啓発資材や、先ほど御説明させていただきましたＳＮＳなどのほか、ポスター原画募集事業や、高校生による街頭キャンペーンにより、若年層に対する献血啓発を行っております。これらについても、また後ほど御説明させていただきます。

それでは、少しページ飛んで７ページを御覧ください。まずは、ＳＮＳなどを利用した各種広報啓発活動について御説明させていただきます。

こちらの左上のもの、大阪府のｆａｃｅｂｏｏｋになります。またその右に、大阪府の公式Xで献血への協力を呼びかけたものをお示ししています。こちら、赤十字血液センターさんからの要請によって、もずやんのつぶやきを発信しました。お示しさせていただいているもので、１．９万回表示回数がされておりまして、ＳＮＳ利用者に対しても幅広く周知をさ

せていただいております。また、この公式Ｘは、１２月にも大阪府献血推進月間に合わせて呼びかけを行っております。

左下の画面、画像ですが、こちらは健康経営セミナーという大阪府が主催している事業者向けのオンラインセミナーがありまして、それに啓発画像を載せさせていただいております。これらのように、今年度は府庁の中のほかの課が実施するような事業でも、啓発させていただく機会があれば利用させていただいておりました。

先ほど少しお話しさせていただきました、ＦＭ大阪の啓発ですが、これはＦＭ大阪ミライｂｒｉｄｇｅという番組内の、ＯＳＡＫＡ　ＮＯＷ＆ＦＵＴＵＲＥという大阪府のコラボコーナーがありまして、若年層献血担当の若手職員がラジオを通して献血を呼びかけということで、今年度はこのラジオを利用した広報も行いました。

続きまして、８ページになります。こちらは、デジタルサイネージによる啓発活動についてです。今年度、広告代理店に、よりアピールの高い啓発について相談をしていたところ、今年度の献血月間は、梅田のＢＩＧＭＡＮでデジタルサイネージを実施させていただきました。またこのほか、大阪府と包括連携協定締結しております日本生命様や、中西金属工業様の御協力の元、各社所有のデジタルサイネージでも啓発を行っております。年末のクリスマスシーズンということもありまして、待ち合わせなどで駅を利用する方、大勢いらっしゃったと思いますので、多くの方の目に入ったのではと思います。この１２月月間のほか、３月にも、後ほどお話しさせていただきますが、ポスター原画を利用した啓発を予定しておりまして、また後ほど御説明させていただきます。

続きまして、９ページを御覧ください。こちら、若年層の献血推進について御説明させていただきます。

先ほど平山委員からも御説明をいただきましたが、全国的に若年層の献血者数は減少傾向にあります。特に１０代から３０代、全国における献血者数は令和４年度で１６６万人でありまして、平成２０年度の２８５万人から大きく減少しております。

大阪府でも全国と同様の傾向となっておりまして、平成２０年度の約２０万人から、令和４年度では約１３万人と、６５％ほどに減少しています。令和元年度以降はコロナ禍による原因も考えられますが、現状は４０代以上の献血者に支えられている状況です。

国は、総献血者数に占める年代別の構成率をより均一にして、将来にわたり安定的に献血者数を確保するために、都道府県ごとに年代別の目標献血者数を示しております。

１０ページ、１１ページに記載されているものがその事務連絡、それと全国の目標値にな

ります。これは昨年度に出されているものですが、大阪府もこちらに記載がありまして、大阪府の若年層の年代別献血者数の目標として、献血推進計画にも反映される形になります。

９ページの下の表について御説明させていただきます。大阪府における若年層の年代別献血者数がこちらの下の表になります。献血者数の右の献血率、こちらは府内の年代別人口に占める献血者数の割合をお示ししております。そして、括弧内の数値は、４月から１２月末までの９か月間の状況です。令和５年度の現状ですが、過去と比較して少し減少傾向となっているかと思います。来年度の目標数につきましては、また来年度の献血推進案に載せておりますので、後ほど御審議いただきたいと思います。

では、続きまして１２ページを御覧ください。

若年層の献血推進の取組として、大阪府ではこのようなポスター原画募集事業を実施しております。この事業は、今年で１４回目に当たりまして、府内の１５歳から２８歳の若年層を対象として、このような同年代の若者に向けて献血の重要性などを訴えてもらうポスター原画を募集するものです。今年度は１６５作品応募がありまして、選考の結果、１２ページの最優秀賞、そのほか優秀賞５作品、１４ページの入賞６作品と、これらの作品が選ばれております。優秀作品につきましては１５ページに記載させていただいておりますように、昨年の１２月に大阪府庁の本館の正面玄関に展示を行いまして、また、大阪府庁の正庁の間にて表彰式を実施しております。

では続きまして、１６ページを御覧ください。こちら、令和４年度に作成したものになりますが、優秀作品を利用して、今後カレンダーやしおりといった啓発物品を作成し、配布する予定です。このカレンダーは、府内の高校や大学などに配布する予定です。また、その下のしおりですけれども、これは全ての優秀作品を利用して作成しまして、新しい高校１年生などに配布する予定としております。また、今後は３月頃に今年度の受賞作品を用いて、難波や大阪駅や、堺東駅、岸和田駅などの主要駅や、献血ルームのある駅を中心にポスター掲示を予定しております。

では続きまして、１７ページを御覧ください。１７ページ、１２月の献血推進月間における、高校生街頭献血キャンペーンの実施について御説明させていただきます。

今年度は、あべの、西梅田、阪急グランドビル周辺の３か所で街頭キャンペーンを実施しました。今年はちょうど年末にインフルエンザが少しはやりまして、ボランティアに参加いただく予定だった生徒さんの数名、急遽欠席となる状況もありましたが、何とかこの３か所で実施をさせていただきました。この阪急グランドビルの周辺や、あべの周辺は、ちょうど

信号のある横断歩道の手前での声かけ運動をさせていただきまして、信号待ちの方々に声かけやティッシュの配布をたくさん行うことができました。そして、キャンペーン翌日には毎日新聞様に記事掲載をいただくということもありまして、１２月献血推進月間としてもアピールをさせていただくことができました。

では続きまして、１８ページを御覧ください。こちら、献血セミナーについて御説明をさせていただきます。

献血セミナーは学校に血液センターの職員様が訪問して、献血や輸血について分かりやすく説明して、生徒さんにその意義や理解を深めてもらうという出前講座です。高校生など、若い方々に献血の重要性や知識を広めて、その後の人生で献血に足を向けてもらうために、この献血セミナーの推進というのは大変重要であると考えております。

献血セミナーの内容は、こちらのほうに記載をさせていただいていますように、スライドによる説明や映像の鑑賞というのが中心、時間はその学校のスケジュールに合わせて調整できる形となっております。それでは本府におけます高校生を対象とした献血セミナーの実施状況を御説明させていただきます。

大阪府では教育庁にお願いしまして、府立学校の校長連絡会などで校長先生方に献血セミナーの周知を行って、また公立、また私立の各高校に献血セミナーに関する資料の送付を行っております。加えて今年度は、過去にセミナー開催の実績のなかった高校を中心に、血液センターの御担当者様と一緒に直接説明に伺うということも行いました。

続きまして、献血セミナーの実施回数ですけれども、この下の表を御覧ください。献血セミナーは高校だけでなく、小学校から大学、専門学校などでも実施はされております。

この２つ表があるんですけれども、その上の表が高等学校での実施推移をお示ししております。令和元年度４０回とありまして、こちら学校の御協力もありまして、実施回数、飛躍的に伸びたのですが、これ以降コロナ禍が大きく影響しまして、実施しにくい状況が続いておりました。ただ、学校関係者様や、市町村献血推進協議会様や血液センター様の連携の元、令和５年度、こちら１２月末現在で３３回と、実施回数は回復傾向にあります。地道な働きかけになりますが、令和６年度も引き続き高校での献血セミナーの実施回数の増加に向けて、学校へのアプローチを行いたいと考えております。

では、最後１９ページですが、若年層の献血推進について、今後の方針ですが、引き続き、血液センターや市町村献血推進協議会と連携して、（１）から（５）に記載しましたような啓発を継続して行ってまいります。

以上、簡単ではございますが、私の説明を終わらせていただきます。

【金倉会長】　　ありがとうございました。

それでは続きまして、学生さんによる献血推進についてお伺いしたいのですが、中原委員、大阪府学生献血推進協議会ではどのような活動を行っているのか、御説明をお願いします。

【中原委員】　　大阪府学生献血推進協議会の中原です。よろしくお願いします。

大阪府学生献血推進協議会の活動報告をさせていただきます。大阪府学生献血推進協議会、通称大阪学推は、年々若年層の献血者数が減少傾向にある中、献血者数の増加を目標に活動しています。３つの大学の奉仕団、近畿大学赤十字奉仕団、大阪産業大学赤十字奉仕団、玉手山学生赤十字奉仕団と、１大学のボランティア部、大阪経済大学に加えて、個人加盟のメンバーが参加しており、約３００名で活動しております。主な活動としては、役員会、献血キャンペーン、ＳＮＳの更新などです。

では、具体的な今年度の活動内容を御紹介します。４月から１２月の主な活動は、資料のとおりです。

５月には、今年度より新たに新歓を開催しました。新しく加入した人に活動を知ってもらうことを目的とし、まだ加入をするか迷っている人にも参加してもらえたので、よい試みだったかなと感じております。

また、メンバー間の交流も積極的に行うようにして、よりよい話合い、よりよい活動ができるようにしました。８月には、東京で行われた全国会議に参加し、全国の学推メンバーとの交流、意見交換をしました。それぞれの地域の特性や現状を理解し合い、話し合うことは刺激的でした。

今年度の大きな方針としては、ＳＮＳを使用した広報に力を入れる、たくさん投稿しフォロワーの増加を目指す、そして呼びかけ回数の増加を大きな方針としました。

まず、ＳＮＳについてですが、昨年度に引き続き、土日の献血バスの運行予定をこういうふうにお知らせする投稿、活動報告、今日はこういうのをしたよというのを投稿しました。キャンペーンの前には、カウントダウンを行いました。

また、学推メンバーが献血に行った際に写真を撮ってきて、こういう感じで献血の報告もしました。

また、今年度は新たに４月１日に学推の紹介動画を投稿し、ずっとトップに固定して学推を調べてくれた人に一目で分かる動画を作りました。

献血ルームのイベント情報の発信を、毎月イベントカレンダーをこういうふうに投稿し

ました。月末に、その月何をやったかのまとめを投稿しました。これが、先ほどすごい長くいっぱい出してしまいましたが、それの４月とかの投稿のスライドです。

また、大阪府の献血推進月間である１２月に合わせて、献血を紹介する投稿を行いました。こういう感じです。

次に、呼びかけについてです。献血キャンペーンは２回実施し、３月にもキャンペーンを予定しています。

七夕キャンペーンです。学推メンバーおそろいのはっぴを着て、けんけつちゃんに来てもらったり、オリジナルティッシュを配ったりしました。これが当日の様子です。

次に、クリスマスキャンペーンについてです。これも当日の写真です。クリスマスということで、まだ献血ができない年齢の方を対象として、けんけつちゃんと一緒に写真を撮ってくれたお子様に、お菓子のプレゼントを行いました。けんけつちゃんは大人気で、たくさんの方が写真を撮ってくれ、保護者の方が献血に興味を持って、いろいろ質問をしてくれて、手応えを感じました。また、将来、今回写真を撮ってくれた子供が、ふと写真を見返したりして、献血に将来参加してくれたらいいなと願っております。

次に、セレッソ献血です。ヨドコウ桜スタジアムの献血の呼びかけに参加させていただきました。これが当日の様子です。

また、今年度は呼びかけの回数を増加したいということで、キャンペーン以外にも呼びかけができるところがないかというのを相談させていただき、呼びかけに参加させていただきました。この際もティッシュ配りをしたりしながら、広報活動を行いました。

また、東方紅楼夢でのイベントにも参加しました。東方Ｐｒｏｊｅｃｔのキャラクターのコスプレをしたりして、呼びかけをこういうふうに行いました。

また、大阪青年会議所さんとのイベントに参加させていただき、献血セミナーの実施と、ラブラッド登録の呼びかけを行いました。これがセミナーの様子です。献血のこと、ラブラッド辺りのことについてお話しし、ラブラッドの登録を呼びかけました。セミナー内では、献血クイズも実施しました。当日はハロウィンだったので、ハロウィン風のメイクをしてもらったり、大阪青年会議所の皆さんと一緒にたくさん写真を撮ってもらって、ＳＮＳも活発に動かして、イベントを盛り上げました。

今年度も１年間ありがとうございました。これで、大阪学推の活動報告を終わります。ありがとうございました。

【金倉会長】　　ありがとうございました。

若年層の献血啓発には、学生さんによる活発な活動が非常に重要だというふうに思います。今後ともよろしくお願いしたいと思います。

それでは、今までの３つの発表について、議題（１）血液事業の現状について、につきまして、御意見とか御質問がございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

いかがでしょう。はい、どうぞ。角田委員。

【角田委員】　　八尾市の社会福祉協議会（献血推進協議会）の角田でございます。

大学生の皆さん、非常に前向きなすばらしい成果でやっていただいていることを感激しております。

私たちの場合は、もう一段下の小学生を対象にして、親子献血教室ということで、親子で勉強会、献血の重要性、そういうことを学ぶということをしております。若年ということで、私は高校、大学も結構ですけれど、本来はもっともっと低い段階で、家庭の中でそういう献血について学ぶ機会をつくる、そのための協力を社会福祉協議会は手を添えてやっているわけなんです。

私は、もう一段下の段階も目を向けるべきだなというふうに、今お話を聞いておりまして改めて実感し、ますます地域で頑張っていきたいと思っております。

やはり、今まで私度々ここでは発言させていただいたんですが、見学会でも小さい子供と母親が、若いときから、小さいときから血液について学んだり、目の当たりにしたりということ、これが非常に大事だと思います。確かに大学生、高校生はすぐに戦力として活用できる、参加していただけるわけですけれども、もっと下の世代の掘り起こしにも目を向けていただいたらいかがかと思うんですが、いかがでしょうか。

【金倉会長】　　貴重な御意見だと思います。

平山委員、何か御意見ございますか。

【平山委員】　　そこの部分に関しては、私も同意見です。

先ほど、スライドで説明させていただきましたように、大阪センターとしては毎年夏休みのタイミングで、小学生を対象とした献血セミナーを実施しております。保護者も一緒に来られるので、親子で勉強するという形になろうかと思います。

こういう活動は大阪センターだけではなく、全国的に全ての血液センターで実施されているわけではないですが、多くの血液センターで実施されております。

それから、今年度は国が重たい腰を上げられました。政府のほうは毎年、骨太の方針というのを公表されていますが、今年度初めて献血に触れられました。どういう記載がされてい

るかというと、小、中学校の現場での推進活動も含めて、「献血への理解を深める」という記載を、骨太の方針２０２３バージョンに記載いただきました。

具体的な動きとしては、厚労省と日赤の間で小学生向きのこういう冊子を作成いただいています。「みんなで学ぼう血液のこと」ということで、１５ページぐらいのボリュームですけれど、中にはけんけつちゃんも登場して、漫画仕立てで血液の役割、輸血の必要性、輸血を支える献血の必要性について説明した冊子です。小学生ですので、今は献血できないということで、最後は大きくなったら献血に行きましょうねということで締めくくっております。これを今年度は全国の小学生、小学校の４年生全員にこの冊子を配布する予定だそうです。冊子になるとなかなか見ていただきにくいということもあるので、動画も作成して小学校に配布する予定だそうです。

配布予定につきましては、この２月の下旬から３月の上旬にかけて、全国の小学校に配布するというようなことを実施する予定です。そういう活動も国、それから血液センターレベルで、実施することになっております。

以上です。

【金倉会長】　ありがとうございます。

いかがでしょうか、角田委員。

【角田委員】　小学生に関わる場合には、ぜひとも教育委員会からのお手伝いが必要でございます。府のほうからそのような教育委員会の働きかけをいただいたら、なお一層充実するのではないかと思います。私はこのように自信を持って申しますのは、コロナのときも八尾市の献血者数がちっとも減っていないんです。

本当に皆さん、地域の皆さんも協力してくれました。それから、私ついでにお尋ねしとうございますのは、能登半島での献血の必要性はどのぐらいだったのか、全然なかったのか。それともひっ迫しているのか。震災のときにはそういうことも考えなきゃいけませんので、ぜひそういうことも含んで教えていただく機会をつくっていただけたらと思います。

【金倉会長】　いかがでしょうか。データは今お持ちじゃないかも分かりませんが、事務局、何かございますか。

【事務局（山﨑）】　先ほど、平山委員からお示しのありました、小学生向けの配布冊子など含めて、各市町村の教育委員会、あるいは厚生労働省とも連携をさせていただきながら、その配布などの推進をしていきたいと考えています。

【金倉会長】　輸血のデータは今すぐにはないように思いますので、災害時の輸血につい

ては、大阪府のほうから、またお知らせするようにさせていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。中原委員、何か学生の立場から活動していて、何かこういうのも面白いなというふうな意見がございましたら、お願いしたいと思いますけど。

【中原委員】　先ほど、ＳＮＳと言わせていただいたんですけども、実際、大学の友達等に、献血って興味あるって言ったところ、全然みんな嫌悪感は持っていないし、けど行く機会がないというか、きっかけがないということで行っていないだけで、じゃ、行こうよって言ったら意外と行ってくれたりとかするんですよ。

そういうオフラインの交流のほうが、実はきっかけとしては有効だなというのを感じまして、もちろん、献血って興味を持って調べてくれた方は、ＳＮＳを通じていろいろ質問してくれたりとか、そういう意味ではＳＮＳの広報も若者に対してすごいばっちりだなと感じたんですけど、意外とオフラインでの広報も若者間では有効だし、実際の食事中の会話とか、そういうときの話題にも上るしで、有効だなと感じました。

【金倉会長】　それは、友人同士とか知り合い同士のほうが有効ですかね。

【中原委員】　そうですね。

【金倉会長】　例えば、この献血セミナーみたいなので、例えば学生さんの反応とかは、こういうセミナーというのは、リモートよりはいいと思うんですけど、セミナーとかはどういう印象をお持ちですか。

【中原委員】　知識やし、もちろん献血というのは頭には残るみたいなんですけど、実際行くまでに至るかって言われると、もう一押し必要なんだなとちょっと思いました。

実際の友達が行ったんだというので、それやったら行こうかなみたいな感じかなと思います。でも、献血セミナーも聞いただけでも、行こうって思う人が絶対いて、その人がいかに周りを巻き込めるかかなとも感じております。

【金倉会長】　ありがとうございます。

ぜひとも、触れ合いが大事だということですので、それはコロナでよく分かりましたので、やはり人をインスパイアするには、やっぱりちょっと触れ合わないとなかなか難しいということのようですので、ぜひとも今後ともセミナー頑張っていただければと思います。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、それでは続きまして、議題の（２）令和６年度大阪府献血推進計画（案）について、事務局から御説明お願いします。

【事務局（山﨑）】　続きまして、大阪府献血推進計画の案について御説明させていただ

きます。この資料の４をお持ちください。

この計画は、安全な血液製剤と安定供給の確保等に関する法律第１０条第５項により、都道府県が毎年度作成することとされておりまして、知事が本日付で大阪府献血推進委員会に諮問するものでございます。

大阪府の献血推進計画につきましては、厚生労働省の令和６年度の献血推進に関する計画（案）を基に策定させていただいており、国の計画案で追加、修正等された箇所を中心に変更しております。ただ今回、次年度の国の献血推進計画案では、都道府県に関わる変更点はございませんでしたので、今回は数値目標の修正がメインとなっております。

９ページを開いていただけますでしょうか。こちら、推進計画の新旧対照表をお示ししております。左の欄が、令和６年度の献血推進計画になっております。右の欄が、現行の計画案でございます。変更箇所は、下線を引いております。

まず９ページのこの変更点ですが、今回は目的欄に記載を追加しております。大阪府の政策企画部からの指示がありまして、全庁方針を踏まえた記載整理になるんですけれども、この献血推進計画とＳＤＧｓとのひもづけを行っております。これによって、「なお、本計画は、平成２７年９月に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の理念を踏まえたものであり、各取組の推進により、関連するゴールの達成に貢献する。」という文字と、ＳＤＧｓロゴと、「すべての人に健康と福祉を」という、関連するゴールのロゴを追加しております。

続きまして、１０ページを御覧ください。こちら、計画目標の献血者数、献血血液量につきましては、例年同様日赤様の試算した需要見込みからの必要量を協議、調整して定めております。

一番上の表ですが、こちらが献血者数の献血血液確保目標量になるんですが、令和６年度の目標としましては、献血者数は合計３８万７０１６人、献血血液確保目標量は合計１７万４４６０リットルと、それぞれ前年度目標に比べまして、ほぼほぼ同数となっております。

その内訳は、２００ミリリットル献血が、令和５年度が１万５９２人から、令和６年度５３８６人と、半分ほどに減っております。こちらのほうは、需要と供給の結果ということもあるかと思いますが、その分４００ミリリットル献血が２４万９６５１人から２５万１７００人と少し増えております。血漿も若干増加しております。

続きまして、２つ目の採血場所別献血者数についてなんですけれども、こちらは一部先ほど御説明させていただきました献血者数の目標値を、血液センター様により、直近の実績割

合を基に各施設に案分した値となっております。

３つ目、原料血漿確保目標量と、輸血用血液確保目標量、こちらも原料のほうが９万２９１６リットルで、輸血用のほうが８万１５４４リットルというふうになっておりまして、原料血漿は２５００リットル程度の増加で、輸血用血液は若干の減少となっております。

続きまして、１０ページの下段のほうの年代別献血者数につきましては、こちらも大阪府と血液センターで協議、調整をさせていただいた数値を入れております。今年度も恐らく数字を含めて、全国的な集約された年代別目標値が、事務連絡として国から発出されるかと思います。

続きまして、１１ページの献血セミナー数についてですが、令和５年度が献血セミナー目標の回数が２５回というふうになっておりまして、この献血セミナーの目標が２年連続で達成できているということと、若年層に対する啓発の強化ということで、高等学校へのセミナー回数を１０回増やしまして、３５回を目標としております。

ほかも修正点につきましては、内容を変えているというわけではなくて、記載整理となります。１１ページの第３の献血推進というところ御覧いただきたいのですが、こちら、高校での学習指導要領の変更がありまして、今まで総合的な学習の時間というのがあったんですけれども、それが総合的な探究の時間となりましたので、こちらの文言修正を行っております。

また、その下、方策の部分では、今まで少し文章の意味が読みづらかった部分がありまして、そこを少し修正させていただきまして、「移動採血車による計画的採血」というような形で記載を修正させていただいております。

（６）の情報の公開というところは、今まで、「府民の理解を得て献血を推進する。」というような文言があったところ、あくまでもここは情報の公開に関しての記載というところで、その「府民の理解を得て献血を推進する。」という文言を削除しております。

最後、１２ページなんですけれども、「大阪府赤十字血液センターは、新型コロナウイルス感染症等の」というふうに、コロナの記載がありましたが、その文言を削除しまして、「新興・再興感染症」のみの記載とさせていただいております。

簡単ではございますが、計画案の主な変更点について御説明をさせていただきました。以上でございます。

【金倉会長】　ありがとうございます。ただいま事務局から、法律に基づき都道府県として毎年度作成する献血推進計画の案についての説明がございましたけど、御意見、御質問等

ございませんでしょうか。いかがでしょうか。

平山委員、何か強調するべきこと、あるいは追加するようなこと、何かございますか。

【平山委員】　　いいえ、特にございません。

【金倉会長】　　はい。ほかにいかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは、令和６年度大阪府献血推進計画を原案のとおり御了承いただけますでしょうか。

（異議なしの声）

【金倉会長】　　はい、ありがとうございます。それでは、ただいま御了承いただきました献血推進計画により答申することといたします。

事務局から何かございますでしょうか。

【事務局（犬伏）】　　大阪府は本計画を献血事業の指針といたしまして、目標の献血者数、安定確保、また安全な血液の確保ができますよう、関係機関と連携し努力してまいりたいと思います。委員の皆様におかれましては、引き続き献血事業に御協力いただきますよう、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

また、この計画につきましては、本年３月に公表させていただく予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【金倉会長】　　ありがとうございます。

それでは続きまして議題の（３）その他になりますが、本日の審議会全体についての御意見、御質問等がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特に意見はよろしゅうございますか。ないようですので、以上で議題についての審議は全て終了いたしました。本日はどうもありがとうございました。

事務局へお返しいたします。

【事務局（犬伏）】　　円滑な御進行、誠にありがとうございました。本日の議事録は、後日事務局で作成いたしまして、委員の皆様に御確認いただきたいと思います。

なお、議事録につきましては、大阪府の情報公開条例の規定に基づきまして、ホームページ上で公開させていただく御予定でございます。その点、御了承ください。

本日は誠にありがとうございました。

―― 了 ――